



## 親日国ミャンマー!!



衆議院議員 西村 眞悟  
と行く  
慰霊と教育支援の旅



サガインヒル（マングレー）の慰霊碑前に立つ西村 眞悟 代議士  
平成17年2月19日（土）

平成17年2月16日（水）～22日（月）6泊7日

## 旅行記と報告書

主催 ミャンマー教育推進プロジェクト同志会

お問い合わせ先事務局

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋 3-3-11 (株) 新生装備 内

専用回線 ☎ 03-5211-7612

FAX 03-3261-0894

E-mail [chiyoda@shinseisobi.co.jp](mailto:chiyoda@shinseisobi.co.jp)

協力 衆議院議員 西村 眞悟 事務所

日本再生の会

日本を考える25日会

日本真悟の会



## アジアの友邦と共に !!



### 帰国報告とお礼

#### 親日国ミャンマー慰霊の旅 と

#### ミャンマー教育推進プロジェクト

は、平成17年2月16日(水)～22日(火)6泊7日の旅をし、全員無事帰国致しました。特に今回は、衆議院議員 西村 眞悟さんが、全行程を我々と一緒に行動してくださり、更に大阪府八尾市市会議員 三宅 博さん、広島県安浦町町長 沖田 範彦さんと公職におられる方が2人参加され、慰霊と教育現場の視察を真摯に受けとって下さいました。

今回参加された、坂口 茂満さん(大阪府)、南 英雄さん(三重県) 猪原 幹雄さん(神奈川県) 佐藤 進、幸子ご夫妻(東京都)、鈴木 伊祐さん(福島県)、篠澤 善一郎さん(福島県)、西村 和日子、日加留ご姉弟(大阪府)、嶋津 祐一さん(宮城県)、高野 雅樹さん(西村議員秘書) VTR撮影で大活躍の稲川 和男さん(千葉県)の方々、たった1日でしたが現地参加の亀倉 勝男さんの10代から70代の幅広い年齢層、そして私、お世話係の新藤 勲と家内の玲子の一行17名(18日からは16名)は、西村 眞悟代議士の言葉、「慰霊と教育は不可分一体のものであって、この旅がその実体を示していると思います。」を肚に納め現地をまわってきました。

多くの皆様から賛助頂いた、協力金及び文房具の一部は今回の視察で使用させて頂きました。深く感謝申し上げます。慰霊、教育現場視察、協力金使途につきましては、節目節目にてご報告申し上げます。

西村 眞悟代議士におかれては、政治家として地域研究の対象国をミャンマー(ビルマ)を選んでより今日、今回で7回目の訪問でした。「多くの方々と此の地(ビルマ)を訪れアジア解放の礎となった19万英霊のみならず大東亜戦争で散華した英霊と共に生きようではないか、灼熱の大地に立ってみようではないか、この大地に來れば理屈抜きに解る。」との代議士の言葉に参加者全員が大きく頷けました。

現地ミャンマーでは、慰霊地に訪れる遺族の人達が年々減っているとの事、すなわち現実に高齢化が進み、行きたくとも行けないというのが実情です。その方々の意志も引き継ぎ、西村 眞悟代議士と共に、火を絶やすさぬようこの活動を続けて行きたいと全員が思いました。教育の支援も今始まったばかりです。皆様の御協力をこれからも仰がなければなりません。日本国管理の日本人慰霊塔に「勝っているときも、負けているときも優しくしてくれてありがとう」との言葉がありました。

西村 眞悟代議士を芯に据え、共々で歩みたいと願っています。

改めて皆様の賛助ご協力に感謝申し上げます。

今後とも宜しくお願い申し上げます。

ミャンマー教育推進プロジェクト同志会  
事務局 新藤 勲

2月16日(水) 成田空港を出発し、約9時間

ミャンマー首都ヤンゴン(ラングーン)に到着

ヤンゴンのレストランの2階会議室にて結団式 西村眞悟代議士挨拶 抜粋

『日本の中で北海道、九州までのご縁が実りまして、このヤンゴンで今この様にお会いすることが出来たわけでありまして。このヤンゴンはビルマ戦線の中心地で、先ほど話ができたペーグーから、ヤンゴン、マンダレー、二手に別れてほぼ2ヶ月でこの広大なビルマを占領し管理下に置いてイギリスを追い出した所でありまして。このビルマの人々は60年前日本軍が戦った時も今も親日的であります。この親日的な国とですね、アウンサンスーチーの事が喉にひっか掛かって、アメリカ等々は経済封鎖をしておるわけです。日本がこじ開けなきゃいかんと随分努力してまいりましたが、本当にこの国は或る意味で運が悪い、アセアンに加入したとたん、タイのバーツ危機から始まった経済危機でにっちもさっちも行かなくなった。

2年前に皆さんとヤンゴンだけでご一緒しましたが、そのヤンゴンでキンニユン第1書記(日本でいう首相)と会う事ができました。公式会見が終わって帰ろうとする時キンニユンが“おうシンゴ、シンゴまた来てくれ”と何か搾りだしたように言う。これが印象に残ってたら今回はキンニユンが、生きてるか、どこにおるか判らない状態であります。まあこの国も変化しているんだなあと思います。私は義理と人情と浪花節でありますからアウンサンスーチーなどどうでもいいわけで、この国を支えて苦勞して愚痴を言わなかったキンニユンを、キンニユンの人権はどうなってんだと、あう機会があれば此の国の首脳にも言いたい。これがなければアセアンの仲間入りになれない。何故なら義理と人情と浪花節だからであります。まあこういう事を言いたいと思います。

あと一つだけ、2年前私の母親が、あと20日くらい前に死ぬ時に「おかあちゃん!ビルマ、ミャンマーに行ってくるけど、おみやげは何がいいかなあー」「おみやげはええ あんたが元気で帰ってくれたらそれでええ」母親がハッキリと私にも言った最後であります。パゴダの前で小鳥をカゴに入れてお婆あちゃん。そのお婆あちゃんにお金を渡すと、小鳥をぱっと放す。恵みを小鳥という命に与えるという商売をやっている。あの時に全てのカゴにいる小鳥を、僕はヤンゴン市内で放して貰った。それが母親の本当にはげましになったなあと思います。仏教国この仏教国で一匹、二匹の鳥を放たれたらどうかなあと思います。

楽しく、どうかよろしくお願いします。』

2月17日(木)

首都ヤンゴンの宿泊先トレーダス・ホテル・ヤンゴンから5分、フェリー乗り場に行くが霧の為フェリーが出ず、その間シュエダゴンパゴダの側にある市場で買い物したり ↓サイカー10台をチャーターして散策

英語のサイドカーからきている

2人乗りで庶民の足



後のもやが霧です少し晴れてきました。今回の学校視察に、日本語通訳の通称NIさん

NIさんは、学校視察の17日のみ

お願いしました。左は西村 日加留くん



霧が晴れ、イラワジ河を  
フェリーで渡る（10分）  
ジープ5台に分乗し約1時間  
トンテ村入り口に到着  
トンテ村 戸数80 人口450

前回平成14年11月に“ミャンマー慰霊の旅With衆議院議員 西村眞悟”を実施した際、バガンの小学校の生徒に、ノート、鉛筆、色鉛筆、消しゴム、鉛筆削り、飴（キャンディ）を贈呈し、大変喜ばれました。こうした体験を踏まえツアー一行の方々から、細々でも良いからこうした民間外交を是非続けて欲しいと要望されました。更に、ミャンマー人のガイドさんから別れ際、甘えてすまないが、もし今度わが国へ来る時が有れば、僧院で学校に行けない子供達を面倒見てますが、机も椅子も無く地べたで勉強を教えているとのこと、日本でいう寺子屋と思って下さい。30名分の机、椅子で日本円で、8～10万円で、現地職人に作らせて下さい。とまあ、こんなやりとりが有りました。この事がきっかけになり、出来ることなら学校を建築したいと皆様に相談したところ、やってみよう！と言うことになりました。西村 眞悟さんと親しい現地旅行会社 代表 金沢 聖太さんと連絡を取り合い、今回、“親日国ミャンマー慰霊の旅と教育現場視察”が実現の運びとなりました。

現地ミャンマーとの交信を昨年10月6日より始めました。

慰霊の情報のやりとりもあります。教育現場状況と現地要望のみを掲載致します。

10/06 新規学校建築になりますと学校区割りや先生の雇用の問題も発生しますの  
で、政府教育省の許可が取れるまで1年以上かかるとの回答、次に示された  
のが、②学校の老朽化が激しく修繕したいのだが予算がないため、実施出来  
ない学校が沢山有り、それらの施設は、地域教育委員長の申請があれば1ヶ  
月程度で政府教育省から許可が下り新設が可能ですとの事、②の案を採用し  
現地と打合せをしました。

11/25 トンテ村にある公立小学校が老朽化の為、建て替えを希望しています  
名称 P a y a N g u k T o S o u t h e m S c h o o l  
公立小学校生徒数62 学年：幼稚園から小学4年まで（ミャンマ-は5年制）  
予算\$ 11, 000（日本円で130万～150万） 工事期間3ヶ月  
（乾季）～5ヶ月（雨期） 寄付金で建築する規模：60フィート×30フィー  
ト（162㎡、約49坪）また寄付金で建築以外に、机、椅子を購入する  
予定です。

12/04 2月17日トンテの学校に行きますが、文房具を前回同様生徒達に手渡しし  
たいので、手配おねがいします。この文房具は日本より持ち込みです。  
了解しました。

02/04 トンテの学校で、ピアノカ、リコーダー（縦笛）は必要ですか？  
ピアノカ、リコーダー（縦笛）ともにトンテの学校で寄附を受けるそうです。  
鼓笛隊のようなものを作りたいと、希望があったそうで喜んでたそうです。

02/12 トンテに寄附される縦笛ともう一つの楽器の個数をお知らせ願います。  
ピアノカ6台、縦笛25本です。

02/14 ダンボールは全部で2個位ですか？

ダンボールは全部で7個です。そのうちトンテの小学校は4個です。

02/15 教育省からまだ許可が出ません。皆様が来るまでに何とかしたいと思ってま

す。今日も、行ってお願いしてきます。

ご苦勞ですが宜しくお願いします。

2月16日、我々一行が到着した時点でも、許可はおりず、理由は、ヤンゴンで国民会議が開かれるため、日本で言う国会か？政府機関の建物に外国人が立ち入るのは禁止しているとの事。写真撮影もだめ、文房具の贈呈もだめ、すでにジープの手配は完了している為、外側からだけでも視察してみようとなり、17日実施到着してガイドの TUN さんが交渉、校長は国民会議に出かけて留守、村長の許可を貰う、現地村民は大歓迎なのだがどうも政府が絡むとじっくりこない。何処の国でも同じか!? 写真は建て替えを希望しているトンテ村小学校。



写真右端奥に整地してある高台がありそこに新築移転したいとの事、

#### トンテ小学校寄附予定の文房具 一部紹介



左 日本製鉛筆削り 5台

右 こくご、さんすう、キャンパスノート  
消しゴム付き鉛筆3本セットをクリアケー  
スに納め70名分、他に教材用コピー紙、  
日本のカレンダー



ピアノカ6台と

リコーダー25本

平川 一則さん（広島県）寄附



勉強している生徒  
顔に白いのを塗っている  
タナカという日焼け止め  
おしろい



帰り際、「勉強の邪魔してごめん  
なさい。後で村長さんから皆さん  
にお渡しする物が有りますから  
楽しみにしてて下さいね」  
と西村 眞悟代議員  
(許可が出ない文房具のこと)



10年前来た時よりも着ている服が  
カラフルになったと西村さんが言っ  
てたが、生徒たちの服はそれを実証

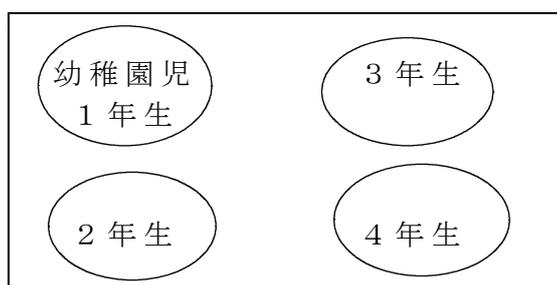
学校を背景に前庭で記念撮影  
坐っている大阪府八尾市議員  
三宅 博さん  
後は生徒、足に注目裸足の子  
が多い、更に後の2名は先生、  
小学校では女性の先生が多い

この後、現地旅行社 金澤さんの所へ教育省からクレーム、後日出頭し教育省副大臣と会う、内容は、とにかく政府を通してください。援助金を頂ければその金額の範囲で校舎は造ります。それまでは文房具、楽器の贈呈品は、持ち込まないで欲しいと固く禁じられ、村長は叱責されたらしいがお咎めなし。まァー写真と生徒達に会えたから良かった良かったというところか〇…目途が立つまで贈呈品は金澤さんの事務所で一時預かってもらうことにしました。政府の許可申請もしているのですがなかなか融通が効かない。申請してしまっているのです、やめたァーと言うわけにもいかない。今度、訪れる時は\$を持ち込んでの話し合いになると思います。いずれにしろトンテ小学校は大変期待しているので早期の実現を目指したいと思っています。

来た道に戻り再びイラワジ河をフェリーで渡り、専用車でバゴアの僧院（寺子屋）2カ所と慰霊碑に向かう。寺子屋の先生方と一緒に食事をするはずだったが、朝方の霧の遅れがたたり果たせず。昼食後バゴアの寺子屋を訪れる境内は広くこのような校舎が幾つも在る。特にこの校舎はボロボロ、修復希望で柱とトタン屋根を直したいと言うが、柱など、いじったら崩れちゃんじゃない!! と同志の声  
ホントホントの声しきり



奥の集団、右の集団、写真中央の集団は組ごとでなく、学年ごとに別れているトシテの小学校も大きな一部屋の中、下図のような形で使ってた。





低学年は長机のみで椅子は  
使用していない

中央の銀色の器はお弁当箱  
ご飯用とおかず用に別れて  
いる。ヤンゴン市内でも通勤  
の人達が持っているのを良く  
見かけた。



右端、視察を終えた  
八尾市市議

三宅 博さん  
校舎内は同志達



視察を終えた沖田 範彦 町長  
黄色のシャツの女の子は物売りの子  
この近くに涅槃仏があり観光地に  
なっている。こうした観光地では  
常に物売りの子達に囲まれる。  
右端は井戸



現地調達の本の一部、紙袋は日本より持ち込みの文房具生徒に渡すノート、鉛筆2本は千人分、現地旅行社の金澤さんの立て替いで用意して頂いた。  
\$ 3 2 5 (日本円換算 3 5 , 2 5 9)



生徒にノートと鉛筆2本を渡す  
現地参加の亀倉 勝男さん 1日だけの参加だったが心底応援してくれました



V T R 担当の稲川 和男さん(千葉県)と鉛筆を渡す係に変身の南 英雄さん(三重県) 右後は先生、笑顔が優しい

寺子屋2カ所の生徒数420名と470名の計890名、日本からの文房具と現地調達の文房具を2カ所の寺子屋の先生に代表して頂き、贈呈する手はずがどこでどうなったか、行き違いが生じ生徒1人1人に手渡し、一行汗だくでフッフウ奮闘、大変だったが終わって見れば良き思い出



よーく御覧下さい  
延々長蛇の列  
手前が我々一行  
と寺子屋の先生方  
と物売りの面々  
混然一体いやはや  
マイッタ マイッタ  
西村さんも  
写ってま〜す

文具をようやく配り終え、僧院に一同招かれる。  
ミャンマーでは、僧侶と学校の先生は、特に尊敬されてるそうです。バスは無料で乗れる、またバスによっては僧侶席なる優先席を設けているとのこと、そう言えば、ジープでトンテからの帰り道、運転手さんに誰か乗せて行くと頼んだところ途中で1人の男性、更に途中で3人の女性を乗せた、いずれも学校の先生でした。



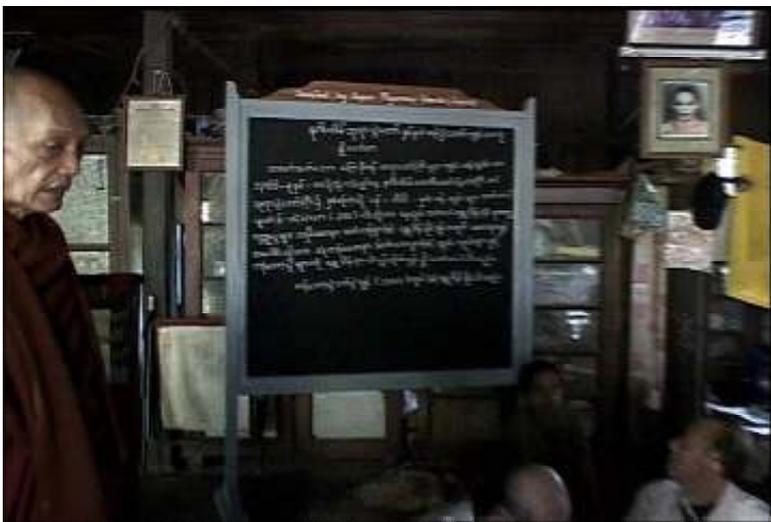
写真は、寺の歴史を説明している貧乏寺のお坊さん

昔この僧院は1人の高僧に依って護持されて居たが、大東亜戦争の時、この寺に馬を連れた日本の兵隊さん（輜重隊か？＝軍需品の輸送補給を担当）が1週間程滞在してました。それを知った英軍にこの寺が爆撃され、その爆撃で高僧は亡くなられました。（日本兵の身代わりか？）以来僧院は1つの境内ですが2人の僧侶によって護持されるようになり

ました。戦後、慰霊碑が建てられましたが今の場所ではなく、境内の外の道路際に在りました。管理が行き届かないということで、現在の場所に移転しました。確かに慰霊碑はもう1つ奥の僧院（金持ち寺）に在りました。

門をくぐり慰霊碑に向かう日本人参拝者は、おそらくこの事実を知らずまっすぐ進んだことでしょう。そして、慰霊碑を守ってくれてありがたいの念でお布施や寄進を申しでたものと思います。致し方無いと思います。その結果、格差が出来通称、金持ち寺と貧乏寺と呼ばれてるようです。旅立つまえに各寺に\$1,000（計\$2,000＝日本円¥216,980）を寄進しました。（この金額も金澤さんに一時立て替えて頂きました）金持ち寺（慰霊碑のある方）は、自分の寺で大工さんを雇っているので\$1,000を頂けたら自分たちで材料を買い作りたいと希望されましたので、お任せしました。我々が訪れた時日本人からの寄附で校舎一棟を新築中、中庭で大工さんが窓枠を作っているところでした。従って金持ち寺では、この工事が終わってから机、椅子を作るとのことでした。金澤さんに完成したら写真を送付して下さいとお願いしました。

他方貧乏寺は、黒板2枚、先生用机椅子2セット、生徒用4人がけ机、椅子30セットを既に購入してますと僧侶から、報告されました。



写真は、この黒板がそうです。と説明を受けてる場面

グレーの黒板枠の上の茶色の部分にDonated by Japan Myanmar friends (Japan) 右端見上げている篠澤善一郎さん（福島県）

西村 眞悟代議士と団一行が二カ所の寺を訪れたのは、何か天意のような感じがしました。ガイドのTUNさんの言によれば、益々格差が開き、寺と寺の関係がギクシャクし始め、あまり仲良くない状態になってきている。貧乏寺としては、同じ境内で英軍の爆撃を受け、多くのビルマ人が死んでるのに、何で向こうの寺ばかり優遇されるか？の思いも有った事でしょう。そんな矢先に我々が訪問し、おんぼろ校舎を修繕したいと願う貧乏寺子屋に、日本より持ち込みの\$ 1, 500

(¥ 162, 735)を現地通貨に替え1, 275, 000 Kyat (チャット)を贈呈したのですから、僧侶は感情をあまり表面に出しません、寺子屋先生方は、喜びを素直に表してました。ようやく陽の目を見たの感だったでしょう。

皆様の賛助協力のお陰でした。有り難うございます。

参考に、ミャンマーの国民所得の年収は、\$ 180

公立小学校月謝 50チャット (約6円) この月謝も払えない子供たちをこうした僧院で面倒みている。

ここの寺子屋の先生の給料 月\$ 6 しかも数年前までは無給

これだけ貧しいのに盗みが少ない、物売りは一生懸命だが、ガツガツしたところがなく男も女も目が穏やかです。

『この国では、喜捨の精神と根強い相互扶助が確立している。福祉国家というものが相互扶助の体制の確立であるというならば、我が日本よりもミャンマーのほうが、このビルマのほうが確立している。』 西村 眞悟さんコメント抜粋



手前 沖田町長、中央 西村代議士、その右 三宅市議 トレイの上は贈呈のお金  
左は我々の為に用意してくれた、バナナ、ミャンマーの揚げ物、そしてお茶  
後の2人の女性は寺子屋の先生

贈呈した机、椅子が教室に整然と並べられていました。横3列 縦6個 計18台  
残りは別の部屋に置かれていました。



左端は物売りの面々  
右端は坂口 茂満さんと西村 眞悟さん

Donated by Japan Myanmar friends (Japan)  
の英文が各机、椅子に書かれている



左端の机は今回の贈呈のもの 高学年教室にて



皆さんを代表して金持ち寺から感謝状を頂く南 英雄さん（三重県）  
後左 三宅市議  
中央 西村代議士  
右端 沖田町長  
その後同志達  
勿論、貧乏寺からも感謝状は頂きました。



金持ち寺の裏にある慰霊碑にて  
55師団を祭っている

日の丸の国旗は鈴木 伊祐さん（福島県）  
奉納、写真では見えないが沖田町長が  
ろうそくを灯す。綺麗に掃除がなされて  
我々が来るといので、花も生けて下さ  
った。



西村さんと佐藤 進、幸子ご夫妻（東京都）  
佐藤さんの父君はこのビルマで亡くなっ  
るとの事、胸中いかばかりか  
二拝二拍手一拝の後、「海行かば」を全員  
で合唱  
うしろは、同志一行

この後、日本大使館の夕食招待を受けている為、時間が無くあわただしい慰霊祭  
で有ったが、全員の誠は英霊に伝わったと思う。

バゴの寺子屋から専用車で2時間どうにか定刻にヤンゴンの日本大使館着

（ヤンゴン～バゴ約80km）

日本大使館の中庭に円卓が用意され、うまい料理に舌つづみしながら、大使館の  
方々と親交を重ねる。



日本大使館 小田野大使から  
夕食の招待を受ける。  
円卓を囲んで懇談する。小田野大使  
と西村 眞悟代議士

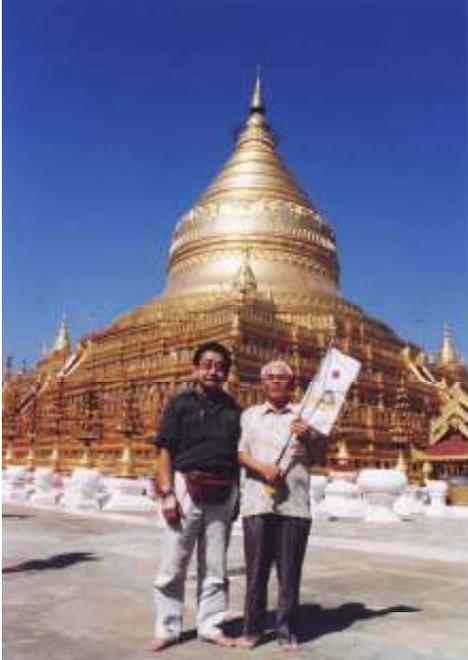


小田野大使と西村 代議士を囲んで  
大使館の方々と同志一行の  
記念撮影

2月17日の予定は無事終わり

2月18日(金) 早朝ヤンゴンのミンガラドン空港へ 濃霧のため延発  
エアバガンで古都バガンへ

ニアウンウーの市場で買い物と散策 飛行機延着で30分のみ  
次、シュエズィゴオンパゴダの仏舎利塔の前、各人西村さんとツーショットの記念  
撮影、その内の1枚、坂口 茂満さん(大阪府)と西村さん、西村さんの頬に注目、  
ここに来る途中、参道があり土産物屋が連なり、その中の一軒で、ミャンマーのお  
しるいタナカを塗ってもらう。



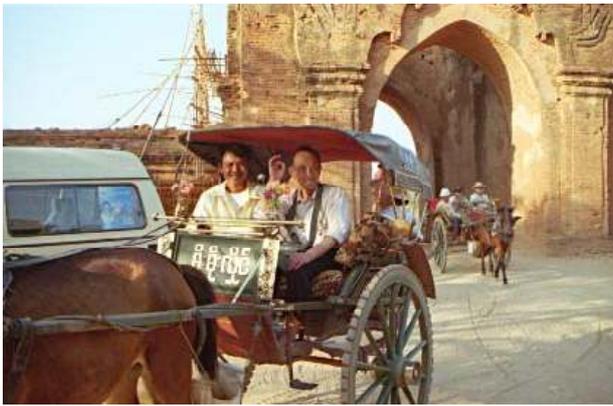
← 記念撮影  
ハイポーズ



←バガンの遺跡を代表する、アーナンダ寺院で参拝  
遠くで見ると微笑んでる様に見える。



ダビニュー寺院で弓部隊の慰霊碑前で  
僧侶による読経、終わった後サドゥーを  
3回繰り返す同志、亡くなった方の魂が救わ  
れると教えられる。その後慰霊祭をする。



車が入れないので、古いパゴダの並ぶ地域をのんびり行く。

どちらが馭<sup>ぎよ</sup>者<sup>しゃ</sup>か？  
馬車8台をチャーターし、バシヤバシヤ進む（VTR担当稲川さんダジャレ）  
こんなことでいいのかなァー  
右が同志 篠澤 善一郎さん（福島県）  
バガンの遺跡にて



シュエサンドーパゴダのてっぺんに登る（観光客が登れる数少ないパゴダの一つ）

西村さんコメント抜粋  
『バガンの眺めは全て絶妙なハーモニーを醸し出している。モンゴルの襲来で滅びたが、人間の営みの悠久さを感じる。営々とパゴダを造り、忽然と滅び去った人類の営み。こんにちの我が日本の建築物で800年後、残るものはあるか・・・』

右端はチャンネル 桜 用の収録をする稲川さん  
近く遠くにパゴダが点在する壮大な風景に一同感歎

イラワジ河サンセットクルーズ：今は乾季で水かさも減っているが雨期になるとかなり増水するのが岸边を見ると素人でも判る。



← 船内は個性有る同志の面々

この河やシッターン河で多くの日本人将兵が亡くなっている

ビルマ最前線～白骨街道生死の境～  
小田 敦巳 著  
光人社NF文庫 ¥675+税  
参考までに



夕日のイラワジ河

2月19日(土) またもや延発 ヤンゴン霧の為、バガンの空港まで飛行機来ず。  
暇もてあそぶ!! 周りになにもなし、唯一の地元の人達が使うカフェに行く。  
犬のけんかを見ながら時間をつぶす。日陰でミャンマー人が5~6人将棋のよ  
うなゲームに興じてた。2時間遅れ



後は空港ターミナル

あまり日本人は寄らないのだろう、店の  
主人とかみさんが、最大級のもてなしを  
してくれた。コーヒーはパックのインスタ  
ント、サービスで小魚の佃煮をだしてくれ  
た。少し犬にあげたが、犬は食べなかった。  
西村さんは食べた。

サガインヒルに来る



読経堂で僧侶3人による供養  
中央：西村さん 左となり：三宅さん  
右となり：沖田さん 更にその右：佐藤  
さん 左端：私 お世話係 新藤

靖国のご神酒、絵馬を奉納  
南 英雄さんが持参してくれた  
磯部神社お札、ご神酒 同期の桜を  
奉納、手前のもやは、沖田さんが  
日本より持ってきてくれた線香の煙  
このあと、お1人お1人に依る参拝

この読経堂のごく近くに、下記の慰霊碑がある。  
ビルマ戦線投入兵力328,498人の内戦没者190,900人のいる大地  
ビルマ(ミャンマー)で最大の慰霊塔



サガインヒルの慰霊碑は上記の順で並んでいる。  
鯨、烈、菊の兵団将兵を祭っている。一番右は、慰霊の二文字のみ  
西村さんの話では、各兵団のみならず、此の地で散華した全将兵を祭ったのでは  
ないか



黙禱を捧げる我ら一行、奥に座っている人々はこの慰霊碑を管理清掃してくれているミャンマー人、日差しが強烈で黙禱を捧げる我ら一行の影がくっきり。

黙禱、「君が代」「海行かば」を斉唱、二拝二拍手一拝の拝礼、この間猪原 幹雄さん（神奈川）涙なみだ…、各々慰霊碑に参拝、裸足で上がる慰霊碑前の敷石は焼けどするよう<sup>な</sup>熱さ、汗が止めどなく溢れる、一同堪えて焼香、参拝その後、靖国のご神酒で直会。全行事が終わったあと、同志から3千チャット（約350円）を抛出して頂き計4万8千チャット（約6千円）を現地管理人に「ご苦労さま、これからもよろしくお願いします。」と感謝をこめて喜捨

かへり見はせじ	邊にこそ死なめ	大君のおほきみの	草むす <sup>くさむす</sup> 屍 <sup>かばね</sup>	山行かば <sup>やまゆ</sup>	水漬く <sup>みづ</sup> 屍 <sup>かばね</sup>	海行かば <sup>うみゆ</sup>	海行かば <sup>うみゆ</sup>	作曲 信時 潔	作歌 大伴 家持	海行かば
---------	---------	----------	--------------------------------------	---------------------	------------------------------------	---------------------	---------------------	---------	----------	------



サガインヒルから見る眺望



### サガインヒル慰霊碑前で西村さんコメント抜粋

『歴史を奪われたなあー、油断してたなあーと思いますなあー、本年は日露開戦勝利100周年、大東亜戦争終戦60周年、本年はその歴史回復元年の年です。この戦争がドゴールやチャーチルが認めたように、白人の数百年のアジア支配を打破する戦争であった。実感できると思います。偉大な軍隊でした。この灼熱のビルマで40キロの背囊を担いでアラカン山脈を越えてインパールの方向へ攻めて行ってるわけです。ビルマに来て歩いて見て下さい。荷物を担がず歩いただけでもどれだけ体力を消耗するかと・・・この親日的なビルマ、ミャンマーという国を現在に於ける日本の国家戦略として、我々は手を取り合って助けなければならぬと思います。異国の大地に眠れる英霊、なおこれから蘇って我が我ら祖国の為に今ある興廃を守り給え祖国を守り給え。祖国は英霊の生きられた時よりも、精神で大変でございます。どうかこれから国家基本の再興と教育の再建を目指しますので、決して安らかに眠れとは申し上げる事は出来ません。我々の祖国本当に今大変です、戦い終わって60年また戦いに勝たねばなりません。これからの戦い断じて負ける訳にはいきませんので、どうかよろしく願いいたします。』

平成17年2月19日現地時間午後2時40分 灼熱の大地  
マンダレー郊外サガインヒルにて

2月20日(日)

マンダレー発 今度は順調 エアーバガンでシャン州のヘーホー空港へ

ヘーホー空港から専用車でインレ湖に向かう車中で～

西村さんコメント抜粋

『私が、始めて来たのが平成5年だったと思いますが、日本でアウンサンスーチーだけがビルマであるように言われているけれど、風穴をあけようとヤンゴンに来ました。始めた会ったキンニユン第1書記と初めての挨拶が、このビルマに19万の日本軍将兵の霊が眠っている。19万将兵には2人ずつ両親がおり兄弟もおります。その日本人を代表して19万戦没将兵の為に慰霊をおこなって、パゴダに花をかかけてくれている。このミャンマーの人達に感謝申し上げたいと、このように言いました。それからキンニユンとは、いつも会ってたわけです。日本における民主主義と自由というものをイギリス、アメリカ的に、押さえつければ事たりるんだという、今迄の進歩的な歴史観に一石を投じようとして、選んだのがこのミャンマーでありました。それ以来、ミャンマーを政治家としての地域研究の対象国として今迄やってまいりました。

慰霊は日々何かを感じられるものです。昨日のサガインヒルの慰霊碑は手を合わせる方向は全てコヒマ、インパールにあわされている。あそこからサガインヒル迄白骨街道が続いて、日本軍将兵の白骨がてんてんと続いてたと思えば、新たな発見でありましたけど、こみ上げるものがありました。アラカン山脈はきのう見渡す事ができませんでしたが、我々が手を合わせ、‘海行かば’を歌った、その方向にですね。インド独立の真の原動力があったわけです。我が日本がやった事を全て戦争が悪いんだという一色で判断していた戦後ですが、あの‘海行かば’を歌った方向にインド独立の大きなきっかけがあり、そのインドは今10億の民をかかえている大国になっていると思えば、19万将兵は、我々日本人の中に生きると共に、アジアの魂の中に生きています。と、こう思っております。

今の天皇陛下がネパール国王戴冠式に行かれた皇太子時代、ネパールの宗主国としての代表としてマウントバッテン大将がネパール国王戴冠式に出席され、皇太子にうやうやしく頭を下げて、「自分はインド方面軍司令官としてビルマで日本軍と戦いました。あの困難な状況の中で秩序を失わず、勇気を失わず最後まで戦った日本軍将兵に接して、このような精強な軍隊が今後この地球上には現れないだろうと思った次第であります。」とこう言われた。これを伝え聞いた時にですね、初めての慰霊の時それを思い出し、瞼に涙の浮かんだことを今思い出しました。

旅はこれからインレ湖でございます。インレ湖は素晴らしい湖であります。我が国の例えば大阪の‘みをつくし’と言うあの湿地帯、昔はこんなんかもわからんなあまたベネチア共和国の出来始めというのは、こういう風景かもわからんなあ、こういう風を感じられるところでございます。心が癒される場所です。

皆さん！私と共に旅行をしていただき本当にありがとうございます。』



インレ湖にある政府公立の水上小学校に向かう。

インは湖、レは四つという意味、昔この湖には、四つの村がありそこから名付けられた。

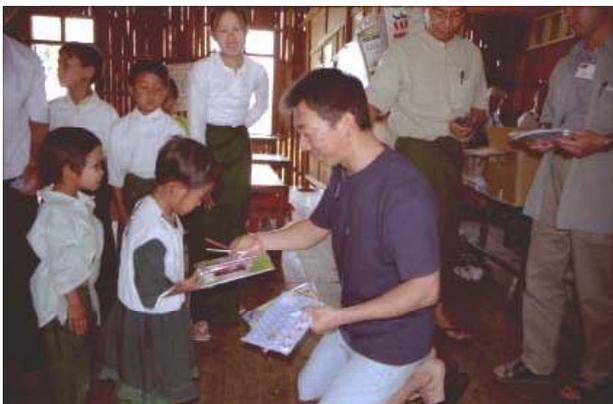
←ボート四艘をチャーターして向かう  
水上小学校に到着の西村さん乗船のボート、うしろは民家



水上小学校全景 右端は出迎えてくれた先生方

この小学校は、ジャド村の中にあるジャは蓮の花、ドは森という意味  
 個数150、人口500、トマト栽培と淡水魚の漁が主体であり豊かでない  
 ジャド村公立小学校の生徒数内訳（ミャンマーの小学校は5年制）  
 幼稚園30名、1年生21名、2年生18名、3年生19名、4年生13名 計  
 101名 先生6名

この日、日曜日に係わらず先生全員と生徒96名が集まってくれました。  
 現地調達の方房具と日本から持ち込んだ方房具を一行が1人1人の生徒に手渡す。  
 トンテの小学校の時も、寺子屋の生徒達も、このシャン州の水上小学校でも、先生  
 の言う事を素直に聞き、行儀良く整列し静かに待っている姿に、感心しました。  
 生徒には、ノートと鉛筆5本、学校には、鉛筆削り（日本製）5台、キャンパスノ  
 ート40冊、教材用コピー紙1,000枚、カレンダー、篠澤さんが持参した折  
 り紙、日本手ぬぐいを贈呈、更に、同志各自より2,000チャットを賛助して頂  
 き（計32,000チャット＝日本円換算約¥3,000）小学校に喜捨しました。  
 以下はその時の一コマです。



4歳の子の父親である嶋津 祐一さん  
 （宮城県）の贈呈式



渡し終わった生徒とツーショットの  
 猪原 幹雄さん（神奈川県）  
 右端は鈴木 伊祐さん



生徒の目線に注目!!  
 生徒に上げた鉛筆が転り落ちる～  
 オット・トット拾い上げる西村さん

中央は小学校の先生  
 いつも思うのだが学校の先生の  
 優しい笑顔に癒される



佐藤 幸子さんの贈呈式



ノート・鉛筆を大事そうに押さえる  
 生徒



‘日本の風景’カレンダーを  
 校長先生に贈呈する  
 西村 和日子さん  
 この後握手、一同拍手

ミャンマーの学校の先生は  
 緑色のロンジー（一種の巻ス  
 カート）と白のブラウスを着  
 ているのですぐ判る  
 ロンジーは男性も使用してい  
 る。



『ミンガラバー（こんにちは）ミャンマーと日本は昔から大変仲の良い国です。一生懸命勉強して、先生と一緒に楽しく学ばれることを、日本より心から願ってま〜す。』西村さんの語りかけ。その後の記念撮影↑



手を振って見送る先生方  
窓の中も先生方です



学校をあとにする

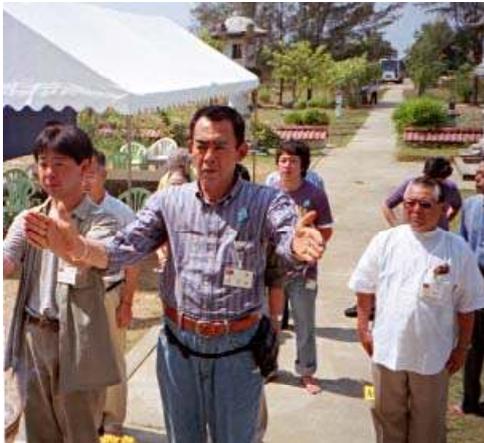
2月21日（月）旅の最後の日、首都ヤンゴン



日本国が管理する日本人墓地で慰霊祭、黙祷を捧げる



「君が代」「海行かば」を歌う



ビルマで叔父さんが戦死している南 英雄さん二拝二拍手一拝の  
拝礼



佐藤さんのお父さんもこの  
ビルマで戦死、岡 中隊に所属  
右 奥様の幸子さん



← 左 篠澤 善一郎さん（福島県）  
右 鈴木 伊祐さん（福島県）  
この後、恩賜の煙草を祭壇に灯す  
（日本真悟の会会長 林 慎平氏寄託）  
恩賜の煙草をいただいて明日は死ぬぞと  
決めた夜は～（空の勇士）篠澤さん浪々  
の歌声、そのあとを鈴木さんが歌う  
西村さん拍手  
なおらい  
一同ご神酒 同期の桜で直 会

日本人墓地にて 西村 眞悟さんコメント抜粋

『只今21日当地时间12時12分であります。ビルマ、ミャンマーに於ける日本人墓地慰霊祭を終えました。向こうには明治42年8月無縁碑、その向こうには勇兵团戦没者慰霊碑があるわけでございます。向こう側にも殉国有志の碑があり戦のみならず此の地で亡くなった日本人の墓碑があるわけでございます。我々は19万将兵、戦没将兵の霊をここで慰めたわけでございます。本日をもって慰霊の旅の日程を終わりますがこの慰霊の旅に参加した人達は慰霊の旅が終わったという気持ちでなくて、これから始まったという思いで祖国日本へ帰られることと思っております。私もその1人であります。何故かと言えば祖国再建という志において、英霊の思いと我々の思いが一致しておる以上、亡くなった戦没英霊と我々は同時に祖国再建に着手したと、生きるものそして死せしもの祖国再建を願っている。これが日本の新しい国造りの原点であります。戦後60年、日露戦争勝利100周年の今年から、日清、日露を含む全ての戦没者、命を捧げた方の英霊の思いと、生きている我々の思いが同じになって、祖国再建に進むという歴史の転換点に入ったと、こういうふうに思います。

ミャンマーに於ける首都ヤンゴン郊外の日本人墓地を訪れて今申し上げた考えを肚の底から申しました。そして、あそこの碑にも書いてありますように「戦いに勝っている時も、敗残兵として敗走する時もビルマの人達はいつも日本兵を歓迎し暖かく迎えてくれた。本当にありがとう。」あの碑には書いてある。そして私も申し上げます。ミャンマーの人達よ!! 本当にありがとう!!』

吾は官軍 我が敵は 天地容れざる 朝敵ぞ 敵の大將 たる者は 古今無双の  
英雄で これに従う つわものは～の西村さん唄声日本人墓地全体に響く

19万英霊も一緒に唄ってたんでは・・・ 歌詞：抜刀隊

西村眞悟代議士の発声で、天皇陛下 万歳!! 万歳!! 万歳!! を、団一同渾身の力で三唱、日本人墓地での慰霊祭を全て終了しました。

トレーダス・ホテル・ヤンゴンに戻り昼食後、西村代議士、三宅市議、沖田町長は元通産大臣のエーベル氏と会見。

他の同志はシュエダゴンパゴダ寺院見学と、アウンサン・ボージョー市場に買い物に行く。



シュエダゴンパゴダにて

左 ガイドのTUNさん

実に良く我々の面倒を見てくれた

右 西村事務所の秘書 高野雅樹さん

今回の資料写真は高野さんをお願いした

撮影したフィルム14本

ご苦労様でした。

チェズデマレ（ありがとう）

ミャンマーの寺院、僧院は例外なく裸足です  
草履は必需品ですが、ミャンマーでお買い求め  
て頂けたら、少しは経済援助になるかもね？

但し、ここミャンマーでも中国の進出は著しく  
中国製の品物が多く市場に出回っているとの事  
ご用心ご用心

小学校、寺子屋に贈呈した文房具は一部タイ製  
ですが、日本製にこだわりました。日本から  
重い思いして中国を運ぶ気ありません。はいー

トレーダス・ホテル・ヤンゴンで会見する西村眞悟代議士と元通産大臣のアーベル氏、平成14年11月に訪れた時は、現職であられたが、それから3ヶ月後に退官なされている。お元気な様子でした。西村代議士がアーベル氏にキンニョン元第1書記の状況を尋ねるが、アーベル氏は会っていないし、何処にいるかもわからない。と言うご返事、もし判ったら是非知らせて欲しいと念を押す。西村代議士



今度来られる時は、政府首脳と是非お会い下さいとアーベル氏からの要請、アーベル氏もキンニョンさんの事は気に掛かっていらっしゃるのか？

2時間の会見があつという間に終わりました。

←アーベル氏と西村眞悟代議士  
写真に写ってませんが  
八尾市会議員 三宅 博氏  
広島県安浦町長 沖田 範彦氏  
も参加

2月21日（月）ミャンマーの首都ヤンゴン（ラングーン）最後の夜

ホテルの晩餐会にて西村眞悟さん総括コメント抜粋

『本当に魂を洗われるような旅行をさせて頂きました。慰霊の旅という、慰霊の意味が良くわかりました。慰霊の意味とは、亡くなった方々と共に生きるという。自分の中に亡くなった方々の魂を生かしながら、自分も亡くなった方々と共に同じ世界に行く迄生きるということであろうかと思えます。ビルマの大地は赤い土のずっと連なるところで、イラワジ会戦のあのあたりは、木があまり繁ってない丘陵灼熱の大地、あそこで戦ったわけでありまして。団16名この中でも南社長と佐藤さんが身内をこのビルマ戦線で失われてるわけです。日露戦争は旅順、奉天が本当の意味での決戦場であります。100年前です。60年前は負けたとはいえ、このビルマで日本人がいかなる軍隊を持っていたかという総決算がおこなわれたんです。先日も申しましたようにイギリス軍司令官マウントバッテンは、この日本軍に対して此程苦難の中で秩序を失わず勇敢に戦った日本軍というものは、我々の歴史上二度と再び現れる事はないであろうと、現天皇陛下の皇太子時代に語ったわけがあります。こういう先祖を持って誇りに思って生き抜きたいと、慰霊の旅は本日終わりとなっていますが、慰霊とは本日始まった思いで我々は日本に帰るのであります。

慰霊と教育とは、この二つのことは不可分であって、この旅がその実体を示しておると思えます。19万のこのビルマの土になられた日本軍将兵はこのビルマを愛してるんだと思えますね。ここの大地から生まれてくる子供達の未来をですね、幸多かれと願うことですね。英霊も願い、我々は英霊の願いを実践しにここに来た。こういう思いを理屈でなく肚の底から感じた旅でありました。

思い出しますね。この団に参加したみんなは、あの子供達の顔、思い出します。ああいう顔は日本人の顔でもあるんです。我々は少々豊かになりすぎた社会に住んで、この地の人々は地球上で最も貧しいレベルだと言われている。貧しさの中に住んでいる貧しき者と、豊かな者が一同に介した時に差はあるのかと思えば、豊かな者はむしろ貧しき者に教えられるという感じがします。鉛筆ノートを渡した子供達一人一人が圧倒的な存在感で、豊かな国から来た我々を教えてくれるなあとと思えますね。有意義な旅でした。本当にまた来たいなあとと思えます。ありがとうございました。』